～おおいしだのとんとむがすあったけど⑮～

鐘川

大石田の横山下宿に鐘川とよぶ川があります。昔、昔、上の原の源平原で鐘を鋳造していたそうです。最近までその原の跡に鋳造した時のくづが出て来たといわれています。

昔、昔のこと、ここに羽黒山から鐘の注文がありました。その鐘は、すばらしく大きな鐘で、造るのにも大変な日数をついやして、ようやくできあがりました。

さてできあがったのはよいけれど、これをどうしても動かすことができません。さてどうするか？と思案していると、羽黒山から、弁慶が来ました。

弁慶は「羽黒山で、俺にこの鐘をもってこいというので取りに来ました。」といいます。

そうして、「どれどれ、俺が最上川まで運ぶから、最上川に舟を準備しておいてくれ。」といい、羽黒山からもって来たという、太い太い、初めて見るような綱を鐘にかけて、「ウン」「ウン」と引っぱりました。すると鐘はずるずると動き出しました。

鐘の動いた跡は大きく、くぼんでしまいます。そうして、とうとう最上川まで運びだそうとしました。そこで準備してあった舟に積んで、古口まで行ったところ、どうしたことか、舟が風にあおられて、ひっくりかえってしまいました。あわてた弁慶は、川にもぐって見たが、雪どけ水の汚りでどうしてもさがすことができず、しばらくの間、水がおさまるまで待つことにして、一たん羽黒山に戻ってしまいました。

しかし、水の力は大きいもので、いつの間にか、鐘を押し流してしまい、いくらさがしても、さがしても見つけだすことができなかったということです。

鐘を運び出した跡のくぼみは、たちまち川になってしまい、その川を鐘川と呼ぶようになってしまったというのです。

○出典『北村山地方の民話（伝説編）』（滝口国也編著、東根市民話の会発行、一九九〇年）

今回は、羽黒山から依頼を受けたとされる大鐘のお話です。出羽三山神社には現存する梵鐘（国重要文化財）がありますが、この鐘には一二七五年（建治元年）の銘があり、東大寺鐘・金剛峰寺に次ぐ大きさで、東北地方では第一の巨鐘です。また、この大鐘には、鎌倉時代の文永・弘安の蒙古襲来の際、羽黒山の竜神（九頭竜王）により、敵の艦船を全部海中に覆滅した伝説があり、鎌倉幕府が羽黒山大権現の霊威をいたく感じ、羽黒山の鐘ヶ丘で鐘を鋳て、奉られたといわれています。

今回の話の舞台は、横山の上の原の源平原となっており、現存する羽黒山の鐘にまつわる伝説とは異なりますが、羽黒山と関わりがあったとされる武蔵坊弁慶が登場します。

義経一代記『義経記』には、平安時代末期、兄頼朝から追われた源義経が、一一八七年（文治三年）に陸奥国平泉に向かう途中に県内を通り、同行していた弁慶のみが羽黒山に代参したことが記されています。また、義経主従が最上川下流部の清川から中流部の本合海までの最上峡を舟で遡ったという記述もあります。

県内にはいくつか義経や弁慶にまつわる伝説が残っていますが、最上川沿いの地域には、特に色濃く分布しているようです。

○参考文献『開山一四〇〇年記念　出羽三山』（伊藤武著、みちのく書房、一九九六年）

楽がき帳

新年度になりましたが、私は異動がなく、広報担当2年目になりました。今年度もどうぞよろしくお願いします。

さて、紙面でも掲載していますが、4月から地域おこし協力隊として新たに末石靖知さん、久龍花怜さん、土田徹奈さんの3名が着任し、令和元年度に着任した大野達也さん、大野あかねさんに加えて総勢5名の体制で、それぞれ前職の経験や得意分野を活かして活動していただいています。今後は、ニューフェースの3名もコラムや企画などで広報紙に登場する予定ですので、どうぞよろしくお願いします。（松）

町の人口 令和3年4月1日現在			令和2年度中の異動 R2.4.1～R3.3.31
世帯数	2,303戸	(－3)	-41戸
総人口	6,648人	(－42)	-222人
男	3,276人	(－20)	-91人
女	3,372人	(－22)	-131人

（3月中の異動）			令和2年度中の異動 R2.4.1～R3.3.31	
出生	1人	転入 20人	17人	106人
死亡	10人	転出 53人	125人	222人

※この数字は外国人数も含めた数字です。

山形県大石田町ホームページ

携帯・スマホからアクセスできます

広報おおいしだ 2021／4 No.778

◇編集・発行　大石田町総務課
〒999-4112　山形県北村山郡大石田町緑町1番地　☎0237-35-2111　FAX 0237-35-2118
◇印刷／寒河江印刷㈱